

特別支援教育 発達障害の特性理解

学習障害(限局性学習症)

学習障害(限局性学習症)とは？

- 「学習障害とは、基本的に全般的な知的発達に遅れはないが、**聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力の習得と使用に著しい困難を示す**様々な状態をさすものである。学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない」



NJCLD(1988)の定義を踏襲した「教育定義」

文部省(当時)「学習障害及びこれに類似する学習上の困難を有する児童生徒の指導方法に関する調査研究協力者会議」(1999)

限局性学習症 (specific learning disorder)

- 最新の診断基準(DSM-5)では「限局性学習障害(SLD)」と呼ばれているが、一般的には、学習障害(Learning Disorder; LD)と呼ばれている。
 - Learning Disorders (医)
 - Learning Disabilities(教育/米)
 - Learning Difficulties (教育/英)「学習困難」
 - Learning Differences 「学び方の違い」
- この他にも、Dyslexia(ディスレクシア)、発達性読み書き障害、などと言われている
- 基本的には、総称してLDと呼ぶことが多い

LDの医学的定義のまとめ

- 学習や学業的技能の使用に困難が持続している
 - 読みが不正確または速度が遅い
 - 読んでいるのに意味を理解するのが難しい
 - 字を書くのが難しい
 - 文章が上手にかけない
 - 数字の概念などの習得が難しい
 - 数学的推論が難しい
- これらの学業的技能が、その人の暦年齢に期待されるよりも顕著に低く、学業や日常生活に障害を抱えている
- 知的な遅れがなく、他の疾患や環境の問題ではない

アメリカ精神医学会編 精神疾患の分類と診断の手引(DSM-5)より

聞くことの困難さ(1)

1) 音に注目して聞く難しさ

①音の弁別が難しい

周囲の音(声)と注目すべき音(声)が同じ強さで聞こえることがある

②音節を分解するのが難しい

ことばを音節に分けられない

③音節を抽出するのが難しい

ことばの中から必要な音を取り出せない

※特に特殊音節でつまづくことが多い

聞くことの困難さ(2)

2) 聴覚短期記憶や聴覚ワーキングメモリの弱さ

聞いたことを短い間でも覚えておくことができない

3) 聞いた話の内容理解が難しさ

聞いただけでは、話の内容が理解できない
イメージできない

4) 注意の問題

注意の持続が出来ない

自分に話が向けられていることが分からない

「聞く」ことへの指導のヒント

- 1) 子どもの顔を見て話す
- 2) 話す時には、声の速度、大きさに注意。繰り返しや言い換えも必要に応じてする
- 3) 大事なところは注意を引きつける工夫を
- 4) ノートを取り終わってから、板書の説明をする
→必要であれば板書の内容を印刷して渡す
- 5) 聴覚的弁別、音節分解・抽出の指導
→多層指導モデルMIM(海津、2014)
- 6) 得意な感覚を使った指導
(視覚→同時処理, 聴覚→継時処理)
- 7) 複数の感覚を使った指導(視覚・聴覚・触覚)

話すことの困難さ

- 1) 聴覚—運動協応の難しさ
音声模倣の困難、特定の音の歪みがある
- 2) 言葉を思い出すことの難しさ
必要な単語を会話に合わせて思い出せない
- 3) 話の組み立ての難しさ
順序立てて話したり、説明するのが苦手
- 4) 緊張
緊張して上手くはなせない。吃音も

「話す」ことへの指導のヒント

- 1) 「話す」練習の場の確保(意欲、効力感)
- 2) 緊張を和らげる工夫
例) 子供に当てる場合、自分がいつ当てられるかを分かるようにする(順番や法則通り当てる。当てる際には、答えられそうな質問をする)
- 3) 言葉を思い出させる指導＝記憶の仕方の指導
ペアで覚える、意味カテゴリーで覚える、記憶していることと結びつける、法則で覚える

読むことの困難さ

- 1) 視知覚の問題
形の似た文字の弁別困難、不正確、図と地の弁別
飛ばし読み、勝手読み・・・
- 2) 文字と音の対応づけの難しさ
音韻的コード化、自動化
- 3) 文章理解の障害
読んだだけでは、話の内容が理解できない
イメージできない
音読すると理解にエネルギーが向かず内容の理
解が追いつかない(読んでも何が書いてあるか分
からない)

「読む」ことへの指導のヒント

- 1) 似たような字や形の識別訓練
- 2) 字と音の一致
- 3) 音読の練習(絵本や漫画の活用など)
- 4) 内容理解＝「読み終わったらクイズを出すよ」
『記憶に留めよう』という動機付け
- 5) 読みやすいように！(漢字にルビをふる、指でなぞる、
文と文の間隔をあける)
- 6) 目立つように！(蛍光ペン、下線、字を大きくする)

書くことの困難さ

- 1) 視覚(短期)記憶
見た文字や形を短期的に保持することができない
字を書くとき、線が多かったり足りなかったりする
- 2) 視覚—運動協応
目と手の協応ができない
- 3) 文章構成の障害
書いた内容が読み手に伝わりにくい

※読字障害がある場合、当然書字障害も併存して持つ
ている可能性が極めて高い

「書く」ことへの指導のヒント

- 1) 使用するノートの工夫(罫線や大きさなど)
- 2) 厚紙をマスのおおきさに切る(そのマスの中で書けるようにする)
- 3) 「丁寧に書く」→励ましや動機付け(即時強化)
- 4) 作文の内容について話をしてもらおう
→「ポスト・イット」などを使って、内容を整理
→概念が弱い場合は、概念地図法も……
※書いても覚えられない子どももいる
→「書いて覚える」という戦略を見直すこと!

算数の困難さ

- 1) 数概念に躓きがある
数唱, 一対一対応, 集合数, 抽象化,
単位換算
- 2) 計算に躓きがある
演算の手続き, 視知覚・記憶との関係
- 3) 文章題に躓きがある
内容理解, 求められているものが分からない
- 4) モニタリング
確かめる

「計算」することへの指導のヒント

- 1) 概念の形成状況(仲間集め、階層的概念)
→まず子どもの思考方法を知るべし!
- 2) 数量概念の形成状況
→具体的な経験がないと、抽象的な概念をつかみづらい
- 3) 演算の方法の獲得
→その子のやりやすい方法がある／もしくは、その子独自の方法でやっているかも?
- 4) 単位換算に対する配慮
→「一週間」が「7日」が分からない子は要注意!
